

Relations

第2号

2013.08.31



FASSW

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 第2回大会

「原点回帰の先に見えたもの」

去る6月22日(土)、久留米大学旭町キャンパスにて、福岡県スクールソーシャルワーカー協会第2回大会が開催されました。福岡県内外よりスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)をはじめ、学校や教育委員会関係者、児童相談所や福祉事務所などの福祉関係者、さらには次代を担う大学生・大学院生など、100名を超える参加がありました。当日は、年に1回の大会を飾るに相応しく、多方面から素晴らしい講師陣をお招きし、「Challenge to the “6”-6年目の原点回帰-」を大会テーマにプログラムを企画させていただきました。

第1部となる特別研修では、会員対象企画として子ども家庭支援センターあまぎやまの主任相談員である坂口明夫氏をお招きし、「子どもの声が聞こえていますか? -真のアドボカシーについて考える」と題してご講話をいただきました。普段、私たちSSWは子どもの声を代弁することを専門的役割として重視していますが、心に響く坂口氏の言葉の一つひとつに自問自答しては、真に“寄り添う”ということの意味を再考する機会を与えていただきました。

午後からの第2部では、一般対象企画として、前半に福岡市こども総合相談センター所長の藤林武史氏より、「今、なぜ福岡県にSSWが必要なのか? -教育と福祉の協働に迫る」というテーマで基調講演が行われました。児童相談所長の立場に加え、精神科医としての高い専門性や豊富な経験に基づき、福岡市におけるSSW事業の5年間の検証するとともに、これからのSSWに寄せる期待について多角的に語っていただきました。

後半の大会シンポジウムでは、「6年目の挑戦-先進的取組みに学ぶSSWの効果的活用のススメ」と題して、前須恵町教育委員会主任指導主事の猪股清貴氏、須恵町立須恵東中学校養護教諭の尾関重乃氏、須恵町教育委員会スクールソーシャルワーカーの荒巻智之氏の3名にシンポジストとしてご発題いただきました。SSWの効果的な配置推進を行うためには、教育委員会と学校がSSWの専門性と活用方法について適切な共通理解を図り、学校教職員の一人としてパートナーシップを作り上げていくことが重要であることを示していただきました。

今大会の全プログラムを振り返り、改めて今日の福岡県におけるSSWの活躍は、学校や教育委員会をはじめ、多くの人々の理解と支えにより存在していることを再確認しました。一方で、確実にSSWの必要性が高まるということは、そこに支援を必要とする子ども達が存在していることを暗示していることでもあります。私たちは、子ども達の教育を保障していくという重要なミッションを果たすべく、今後も更なる専門性の向上に向け、止まることなく常に進化していかなければなりません。

最後に、今大会の開催に当たり会場をご提供いただきました久留米大学の関係各位には心より御礼申し上げます。また、大会の円滑な進行にご協力をいただいた久留米大学の学生・大学院生ボランティアスタッフの皆様、大会実行委員並びに運営委員に心から感謝いたします。

福岡県スクールソーシャルワーカー協会
副会長 奥村 賢一

6

I am a school social worker.
What can i do for ...?
Challenge to the "6"

大会レポート

北九州市教育委員会 スクールソーシャルワーカー 角田 かわり (正会員)

特別研修

「子どもの声が聞こえていますか？—真のアドボカシーについて考える」

講演者の坂口さんの生い立ちや所属されている子ども家庭支援センターあまぎやまの状況、またご自身が携わっている東北の復興支援の話まで多岐にわたるお話をいただき、とても感慨深い研修でした。普段SSWとして業務に取り組む中で「子どものために」という思いで支援をしているはずなのに、その「子どもの声」を聞き流していることがあるのではないかと、坂口さんの講演で改めて気付かされました。子どもの声に常に耳を傾け、真のアドボカシーは何か？と自分に問いながら、今後の業務に取り組みたいと感じております。



基調講演

「今、なぜ福岡県にSSWが必要なのか？—教育と福祉の協働に迫る」

現代は子どもと貧困の課題が複雑化してきて複合的貧困状況になってしまっています。複合的貧困状況は不登校・非行・家出・発達障害(多動や衝動性)・学習意欲の低さや学力不足を生んでしまいます。そのような状況の中では教育での対応も限界があり、また、児童相談所のケースワークにも限界が出て来ています。そこで必要なのがSSWだというのがお話の主な内容だったと思います。教育と福祉が協働していけるように繋ぎの役割を果たすこと、また、児童相談所が限界を感じる部分(子どもの課題の早期発見・早期介入と継続的支援・地域や関係機関と連携しての支援 等)を担うことなどがSSWに求められているのだと感じます。その為にSSWから学校現場や児相を含めた関係機関にSSWの役割を知っていただく働きかけを行うことも、実践活動と同時に必要だと感じました。



大会シンポジウム

「6年目の挑戦—先進的取り組みに学ぶSSWの効果的活用 のススメ」

須恵町でのSSWの実践について、SSW・指導主事・養護教諭のそれぞれの立場からお話をいただきました。SSWが働いていく中で町として雇用環境の整備をしていったこと、学校がSSWを知り活用していこうとすること、それを受けてSSWがソーシャルワークを展開していることがよく分かりました。どの市区町村においても須恵町が取り組んでいるこの流れは必要だと感じました。6年目に向けて、SSW自身が地域の現状課題をしっかり分析してアクションを起こし、学校・地域・関係機関と更なる連携をはかっていくことが大切だと思います。



情報交換会

夜の情報交換会にも多数のご参加がありました。笑いの絶えないテーブル、ここぞとばかり繋がりを結ぶ方々、自身の実践を熱く熱く語り合い共有する方々・・・お昼とは違った形でぐっと距離を近づけて交流を深めることができたのではないのでしょうか？顔を合わせ、繋がりを合える時間を大切にしていきたいですね。



平成25年度 初任者研修

平成25年4月13日（土）、この春SSWとして働き始める新任の方を対象に初任者研修が開催されました。

午前中は協会推薦の初任者の方限定で、本協会の門田会長より挨拶があり、その後運営委員の荒巻さんよりアイスブレイク、山崎さんより接遇マナーについての研修がありました。

午後からは既会員も参加し、本協会の奥村副会長より「SSWとしての心構えとその基本的実務」と題しましてSSW業務の基本の基から現場で役立つちょっとした工夫の仕方まで、丁寧にお話を頂きました。また、事例検討では運営委員の池田さんより話題提供を頂き、配置形態等で3つに分かれたグループで、アセスメントからプランニングをみんなで話し合い、発表を行いました。最初は探り探りで緊張の色が隠せなかった参加者も、次第に積極的に発言する姿がみられ、活発に意見交換が行われました。

そして研修終了後は、これから一緒にSSWとこの協会を共に盛り上げていく仲間としての歓迎と団結を深めるため、懇親会が行われました。これから始まる業務に対する不安解消や情報交換を行う良い機会になったのではないかと思います。

SSWとして学校現場を支え、子どもたちの笑顔を支援していくためには、私たち自身が更にパワーアップしていく必要があります。本協会は今後も様々な研修の機会を提供していきますので、会員の皆様、どしどしご参加下さい。

広報事業 寺田 有起

福岡市に
新たな旋風を！！

初任者研修を受けて・・・



福岡市教育委員会
スクールソーシャルワーカー
正会員

横山 明希

心機一転
がんばります！！

初任者研修を受けて、学校現場へ入るにあたっての姿勢や認識を学ぶことができました。また、福岡県内でSSWとして活動する仲間を感じる事ができました。

SSWの多くは自治体や学校において、学校ソーシャルワークを実践する専門職として一人で活動しています。初任者であっても同様に一人で学校現場へ入っていきますが、初任を対象とした研修等を受けることなく活動が開始する自治体も多くあります。しかし、いきなり新しい環境である学校へ入ることは、大きな不安や緊張がありました。今年度から初任者研修が行われるようになり、本格的に学校で活動を始める前の4月に研修を受けることができ、安心感が繋がりました。また、この研修で学んだことを参考にしながら学校へ入ることができました。

このように研修に参加することで、福岡県スクールソーシャルワーカー協会による支えがあると感じたことや、県内で活動する他のSSWの存在はとても心強いと思います。今年度からそれぞれ新しい場所でSSWとなる、初任者の仲間が集まって顔を合わせることができたことも貴重な場となりました。今後もこのような機会に参加し、様々な人と情報交換を行いながら自分の視野を広げ、学びを深めていきたいと思っています。

福岡市教育委員会
スクールソーシャルワーカー
正会員

山田 ちはる



福岡県スクールソーシャルワーカー協会の初任者研修を初めて受けさせていただき、社会人としてのマナーから実践まで幅広く学ぶことができました。

福祉の他分野から来た私にとっては奥村副会長の講演は、自身の今までの実践からイメージができる話や新たにSSW独自の視点の話もあり、非常に新鮮に感じました。また、今までの自分の経験を振り返ることができ大変勉強になりました。特にグループワークでは、『子どもの人権と社会正義を保障する』という言葉として理解していたつもりでも、それをグループワークで実際に支援を展開していく時に情報の整理からアセスメントまでが難しく感じました。実際の支援でも丁寧なアセスメントとモニタリングが非常に重要であり、自己学習やSV、ピアSVを通しソーシャルワークの質を上げていく必要があると感じました。

また、夜の懇親会も初任の方から現任の方までたくさんの方の話を伺うことができ、緊張や不安の解消ができたのではないかと思います。

私自身がまだ学校現場に入っていなかったこともあり、漠然とした不安を抱えたまま4月を迎えていたため、この時期に研修に参加できたことは非常に有意義でした。今後も研修会に参加し、学びを深めていきたいと思っています。

初心を忘れないISSW

3年後のSSWの私

どんなケースに出会っても
余裕がもてるSSW

4

FASSW 第4回研修会

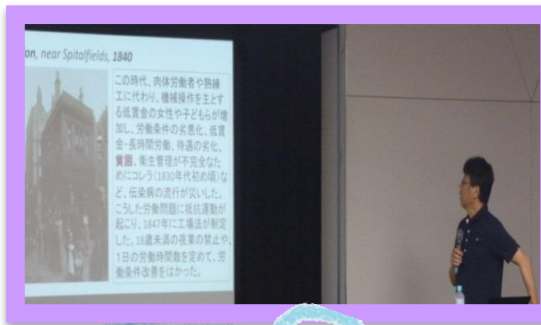
平成25年8月17日(土)、グローバルプラザにて第4回研修会が開催されました。

前半は、「SSWの世界」と題し、門田会長より次世代のSSWを目指す賛助会員、学生会員を対象とした養成研修がありました。子どもの状況改善を図る一つの方法として、SSWの行う家庭訪問に焦点を当てた研修が行われました。研修の最後には、3つの異なるタイプの不登校事例においてSSWが家庭訪問する必要の有無、位置づけについて参加者がそれぞれ考える時間が設けられました。本研修は、SSWが支援として家庭訪問を行う際、目的を明確に持ち、意図的な家庭訪問を実施していくことが重要であると参加者が考える機会となりました。また、SSWの支援について考える題材として、小説や映画として知られる『クリスマス・キャロル』の物語を用いられたため、SSW未経験の参加者にもSSWについて考えやすい研修でした。

後半は、本協会の運営委員の土井さんより、「スクールソーシャルワーカーにおける価値・倫理」と題して、ヒューマンサービスとして学校ソーシャルワーク実践を行って行く上で、最も重要となる価値や倫理について、演習を交えた研修がありました。演習では、実践を振り返り、自身の価値・倫理について確認する機会となるとともに、事例を用い、実践と倫理的ジレンマについて考える機会となりました。また、演習の始めにはアイスブレイクも盛り込まれ、和やかな雰囲気での研修が行われました。

今回の研修は、年度内に開催される4回の養成研修の初回であり、養成研修、基礎研修とともに年度内にのこり3回開催されます。今後とも研修を通して、会員同士交流を深めるとともに互いに学びあい専門性を高めていきましょう。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

広報事業 森山 麻衣子



アイスブレイクのゲームの後に分けられたグループでの演習は、とてもいい雰囲気で行うことができました。演習Aでは、SSWさんが実践の中で大切にしていることを聞くことができ、子どもが大切だという気持ちが皆さんを聞くことができ、子どもが大切だと感じました。その中で、共通して根底にあることを強く感じました。その中で、大切にしていることは、ユーモアだという話が印象的で大切にしていることは、ポジティブな思考を持つことでした。ユーモアによって、ポジティブな思考を通じてユーモアを大切なことに上位に位置づけているのだと思います。この演習を通じて、私もこれから実践の中で自分が何を大切にしていきたいのか考える機会を得ることができました。

演習Bでは、メンバーの方々からどんどん意見が出てくるように圧倒されてしまいました。私は、学校内で得られる情報と、学校内だけでは分からない情報の区別がはっきり分ならず、質問することしかできませんでした。基礎研修を通じて、現場で働いているワーカーさんが、家庭調査票の項目など教えて頂き、勉強になりました。基礎研修を通じて、現場で働いているワーカーさんとグループワークをすることができ、今の自分に足りない部分を認識することができたと共に、近づけるようにより一層頑張ろうと思いました。ありがとうございました。

福岡県立大学 関口 紗矢(学生会員)

今回の養成研修、何よりもまず、福岡県スクールソーシャルワーカー協会の門田光司会長が講師として、直々にお話を聞いたことが嬉しかったです。研修内では、チャールズ・デッケンズ著の「クリスマス・キャロル」や各事例を通して、私達に問い掛ける方式でお話を展開して頂いたのか、この行動にどんな意味があるのか等、自分達で考えながら、拝聴する事が出来ました。

特に私が養成研修で感じたのは、「原点に立ち返ること」と、「スクールソーシャルワーカーだからこそ、その行動を取る事にどういう意味と目的があるのかを考え、理解しておくこと」の重要性です。今回は家庭訪問という例を中心に、スクールソーシャルワーカーの歴史を踏まえながら、元々訪問教師として、何処に重きを置いていたのか、何を目的に活動しているのか、それらを考え、学ばせて頂きました。

まだ学生である私ですが、行動する時には、明確な目的と意思を持つ、そして基本や原点を忘れずにいる、そのようにして日々精進できたら、と思います。まだまだ学ぶべきところは多いので、次回の研修会も楽しみにしております。本当に有難う御座いました。

福岡県立大学 柳谷 学(学生会員)



まっは、

リラックマ、リラックマ



日本学校ソーシャルワーク学会 第8回大会

2013年7月13-14日と日本学校ソーシャルワーク学会第8回大会が福島県で開催されました。初日は、大会テーマである「子どもの生活や地域の再生と学校ソーシャルワークを考える」を通して、震災後に東北・福島の地で展開してきた「地域再生」「子どもの教育復興」に関する基調講演やシンポジウムが実施されました。改めて「福祉とは」「学校ソーシャルワークとは」を考える貴重な機会になりました。また、2日目の自由研究発表では、先駆的な内容の研究が数多く見られ、興味深く発表を聞くことができました。午後の課題研究分科会では、全国的に共通した学校ソーシャルワークもしくはスクールソーシャルワーカー事業に関する課題をテーマとした報告がされ、それぞれの分科会場において参加者との議論が深まり大いに盛り上がりました。

来年度の第9回大会は京都で開催予定です。今大会では課題研究分科会での報告をさせていただきましたが、来年こそは自由研究発表を行いたいと考えています。会員の皆さんにおかれましても、日頃のソーシャルワーク実践を実証的研究という形で全国に発信してみたいかがでしよう。一緒に祇園祭でにぎわう京都を楽しみませんか。 事務局長 下田 学



今回、本協会からは門田会長、奥村副会長をはじめとする5人が福島大会に参加しました。そして、その中から今回は門田会長、奥村副会長、下田事務局長、運営委員の蒲池がご報告させていただきます。今回の学会に参加して、他のSSWの実践と自身の実践とを、他の自治体における取組みと自身が所属する自治体の取組みとを比較することで、何ができていて何が足りないのか、当たり前だと思っていたことがそうではなかったということにたくさん気づかされました。正直、福島までの長旅は大変でしたが、たくさんの発表を聞く中で、それを自身に取り込むために変換したり、応用方法を模索したりと・・・リアルタイムで一つ一つの発表が自身の実践と化学反応を起こす機会はなかなかないのかなと思うと、参加して本当に良かったと思います。

また、全国のSSWの方々との出会いもあり、もともと、たくさんの仲間と出会い繋がり、一緒に互いの実践を共有し合いさらなる学校ソーシャルワーク実践の高みを目指し切磋琢磨し合いたいなあと思いました。 広報事業 蒲池 恵

Pieces

Piecesでは、SSWに関わる方々を、
ルー形式でご紹介していきます！

JOIN US

山崎 千栄子

久留米大学文学部社会福祉学科・糸島市教育委員会

YAMASAKI CHIEKO



次回は、
川野真実さんの登場です！！

去る6月22日に「Challenge to the “6”-6年目の原点 帰帰-」というテーマで、福岡県スクールソーシャルワーカー協会第2回大会が開催されました。今回の大会テーマは私個人にも当てはまることであり、身が引き締まる思いで参加致しました。

思い返してみると、前職を退職し右も左も分からない状態で学校ソーシャルワークの世界に飛び込みました。着任当初は支援に対する焦燥感や学校での孤独感、年齢や経験以上の結果を求められているかのような重圧を感じ、行き詰まることが多くありました。多くの壁にぶつかりましたが、そのたびに子ども達の笑顔やSSWとして働く仲間存在に助けられ、なんとか手さぐりで6年目を迎えたように感じています。

学校ソーシャルワークの広がりにつれて、SSWも増えていくと思います。協会の設立と相まって、支え支えられながら活動ができるよう尽力していきたいと思っています。



FASSWからのお知らせ

事務局から

- ・協会会費納入、入会申込書の郵送よろしくお願ひします。
- ・『福岡県スクールソーシャルワーカー協会』でFacebookを立ち上げています。どうぞ、ご利用下さい。

研修事業から

- ・第5回研修会は、10月12日(土)です。詳細は、後日お知らせします。ぜひ、ご参加下さい。

広報事業から

- ・広報誌は、年に3回配信しています。次回の配信は、12月31日です。お楽しみに～
- ・広報誌では、研修会に参加された会員の皆さまにご感想を頂き、掲載しています。研修会の折には、皆さまに執筆のお願いをするかと思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

編集担当： 広報事業
蒲池 寺田 森山

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局
〒839-8502
福岡県久留米市御井町1635番地
久留米大学 文学部社会福祉学科
(担当/山崎)
Tel:0942-43-4411
Fax:0942-43-5160
E-mail: fassw-2012@hotmail.co.jp

